

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	C	配分額	560,000 円
研究課題	高等学校世界史の教育内容と大学における歴史教育との効果的接続－「東洋史概論」「西洋史概論」の授業改善のために－		

研究代表者

氏名	川手 圭一	所属	人文科学講座歴史学分野	職名	教授
----	-------	----	-------------	----	----

研究分担者

氏名	馬淵 貞利	所属	人文科学講座歴史学分野	職名	教授
	林 邦夫		人文科学講座歴史学分野		教授
	栗田 伸子		人文科学講座歴史学分野		教授
	田中比呂志		人文科学講座歴史学分野		教授
	小嶋 茂稔		人文科学講座歴史学分野		准教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

高等学校地理歴史科の現行学習指導要領及び2010年に告示された新学習指導要領を比較検討しつつ、現在高等学校で使用されている世界史教科書の叙述内容を検討した。特に、本学に進学してくる学生が使用している可能性の高い「世界史B」の教科書を中心に分析を進めた。その結果、東京書籍が刊行する『世界史B』や、三省堂が刊行する『世界史B』に顕著に見られるように、指導要領の枠を逸脱しないように工夫しながら、歴史学界の動向を反映した教科書叙述が多く認められることが確かめられた。

教科書叙述の分析を踏まえて、研究代表者・分担者により、複数回の意見交換を実施した。そうした教科書叙述の存在を前提とすれば、本学における「東洋史概論(概説)」「西洋史概論(概説)」の講義においても、相当程度高度な内容を講述できるのではないかと、という意見がある一方、現実的には本学社会科教室の受験科目の関係もあり、事実上世界史については詳細な知識を持たない学生も一定程度存在することは容易に予想されることから、安易に教科書叙述に依拠して、「概論(概説)」の講義を実施しないほうが賢明であるとの意見も提示された。

あわせて、高度な内容の教科書で世界史を学んできた学生も存在することから、受講学生のどのレベルにターゲットをおいて講義を進めるべきかについても相互に意見交換を行った。

その結果、さしあたり、2011(平成23)年度の「概論(概説)」の実施にあたっては、多彩な教科書叙述の内容を踏まえて、講義担当者の工夫によって、バランスの良い講義を実施することを確認し、実際にその方針で該当の講義を実施したところである。2012(平成24)年度以降の「概論(概説)」担当者についても、今回の研究で得られた高等学校の教科書叙述の特徴への理解に依拠して、講義を進めていくことが確認されている。

また、高等学校における世界史教育のあり方を歴史的に振り返る必要性についての認識も、本研究計画の遂行過程において高まった。特に、外国史研究が「東洋史」と「西洋史」に分かれていた戦前期において、学校現場での教育内容に対し、当時の専門研究者がどのような関わり方をしてきたかについて、基礎的な研究を進めることができた。この点については、主として研究分担者である小嶋が担当したが、その成果については、本学の紀要(社会科学編)において公表すべく、準備を進めているところである。

研究成果発表方法

獲得された研究成果については、研究代表者・分担者が、「東洋史概論(概説)」「西洋史概論(概説)」の授業を担当した際に、授業実践として活用する予定である。また、研究分担者の小嶋は「戦前期中等教育段階における東洋史教育—当該期の東洋史研究の状況との関連に着目して—」(仮題)と題する論考に研究成果をとりまとめるべく執筆中であり、成稿後は本学の紀要(社会科学編)に投稿する予定である。